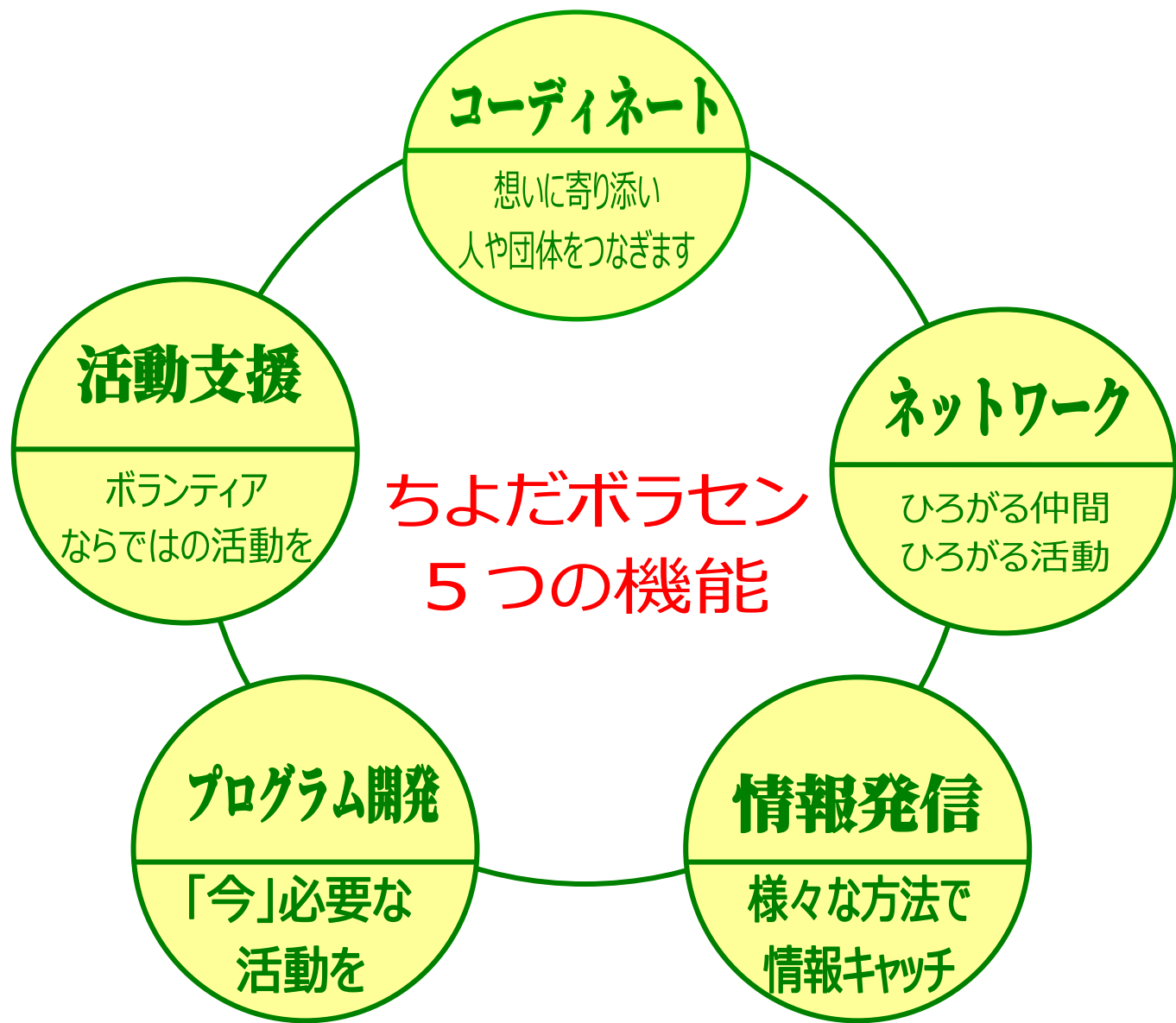


ちよだボランティアセンター・レポート

令和7年度報告



～みんなが参加し、ささえ合うまちづくり～

社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会
ちよだボランティアセンター

〒102-0074 千代田区九段南 1-6-10 かがやきプラザ 4 階

電話 03-6265-6522 FAX 03-3265-1902

E-mail volunteer@chiyoda-cosw.jp URL <https://www.chiyoda-vc.com/>

ちよだボランティアセンターは「千代田区に住み、働き、学ぶ人がお互いに気にかけて
笑顔が生まれるまち」を目指しています。



【1】ボランティアの登録・相談状況

年度	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
個人ボランティア登録者	44 名	68 名	120 名
登録グループ	118 団体	115 団体	120 団体

相談内容	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
ボランティア活動希望	69件	76 件	101件
ボランティア募集希望	76件	23 件	44 件
※その他の相談	568件	600件	634件

【傾向と課題】

- ①ボランティア団体での活動や個別での活動が増えていることもあり、ちよだボランティアセンターでの個人ボランティア登録者の人数は減少傾向にある。
- ②個人ボランティア登録者の活動先が個別ケースに限られることが多いため、施設やサロンなどの活動にも広げていく必要がある。
- ③個人ボランティア数は減少傾向にある一方で、企業や大学など団体での活動希望が多い傾向にあった。ただ、特定の日程/複数人(10 数名)/単発での活動希望が多く、活動先の創出が難しい。
- ④施設や団体からのボランティア募集は増加傾向にあり、ボランティアに対するニーズが高まっている。募集内容としては、傾聴やお散歩同行、楽器演奏や歌などの特技披露、レクリエーション補助など多岐にわたる。

【2】個別ボランティアコーディネート

「制度の狭間」にある個別の生活課題に、多様なボランティアによる関わりだからこそできる支援を調整しています。

● 個別支援の対応件数

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
新規	38 件	30 件	23 件
継続	4 件	3 件	5 件
合計	42 件	33 件	28 件

● 支援内容の内訳 ※重複支援含む

支援内容	件数
傾聴(話し相手)	4
外出支援	
家族のレスパイト	1
語学・通訳・学習支援	
余暇活動のサポート	1
買い物サポート	
自宅の整理・清掃・引っ越し	
他機関へのつなぎ・情報提供等	1

【傾向と課題】

- ①コミュニティソーシャルワーカー(CSW)による個別支援や連携が行われるようになり、ボランティアコーディネートは減少傾向にある。
- ②施設利用者の家族や関係者からの相談が増えている。一方で、ボランティア希望が本人の意思ではなく、その相談者からの希望というケースが多く、コーディネートにつながらない。
- ③相談の実件数は減っているが、コーディネートまでに関係者との打合せや本人への意思確認を行ったり、ボランティア調整などを行うため、対応件数は増加傾向にある。

【3】ボランティア理解促進・活動支援

■介護保険サポーター・ポイント制度

区内在住の 65 歳以上の方を対象に、区が指定する活動先でボランティア活動を行うことで、ポイントが貯まり、そのポイントを換金し(1 ポイント=100 円)受け取ることができる制度です。

地域活動に参加することで、健康づくり・生きがいづくり、介護保険料の負担軽減を目的としています。

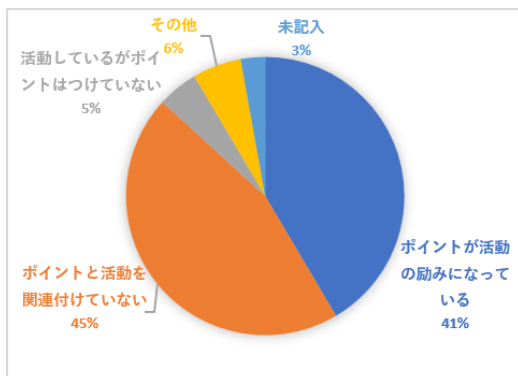
令和 7 年度 活動実績

登録者数	113 人
活動者数	98 人
ポイント総数	326,100

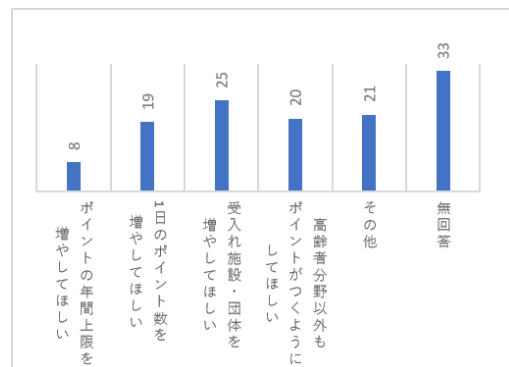
令和 7 年度 活動先

高齢者活動センター	はあとサロン
ちよだボランティアセンター	岩本町ほほえみプラザ
ふれあいクラブ	ふれあいサロン万世
ふれあいサロンココ	ふれあいサロン神田
なでしこ配食サービス	抹茶の会
ランプの灯	いきいきはあとカフェ
実桜の会	オレンジサポーター

制度についての意見・感想



改善点についての意見



【傾向と課題】

- ①ポイントが活動の励みになっていると答える人が半数近くいる一方で、ポイントはボランティア活動と関係づけていないという人も同程度いる。
- ②改善点についての意見として、受入れ団体・施設を増やしてほしいと答える人の割合が高い。(現在は高齢者にまつわる施設や団体のみが受入れ先となっている。)
- ③高齢者活動センターやはあとサロン、配食サービスボランティアなどで活動をしている人が多く、高齢者施設などで活動をしている人が少ない。今後、サポーターの活動をより活性化するためには、講座・登録会とタイアップし、施設ボランティアの魅力発信を行うなど、施設で活動する人を増やす取り組みが必要と考えられる。

■中高生対象 夏のボランティア

夏のボランティア(7月1日～8月31日)

【目的】

- ・区内在住、在学の中高生が夏休み期間でのボランティア活動を通じて、ボランティア活動をより身近に感じてもらう。
- ・“夏ボラ”を通じて、区内での継続的なボランティア活動への参加につなげる。

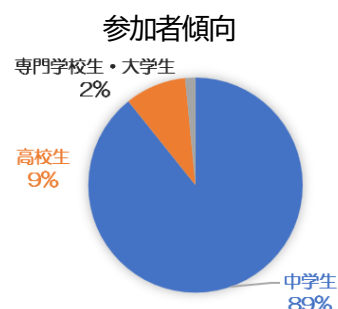
【総参加者数】 130名 【受入施設】19施設

【成果】

- ・昨年度より受入れ可能な施設が増加した。(前年度は10施設・団体)
- ・夏ボラ実施後、継続した学生ボランティアの受入れに繋がったところがあった。
- ・受入施設への事後アンケートで、「次年度もボランティアを受入れたいか」という質問の回答では、87%が「受入れたい」という回答があった。
(「受入れたくない」と回答した13%の理由は、「学生ボランティア応募が多すぎたため」とのことであった。)

【傾向と課題】

- ・高齢者施設へのボランティア申込みが少なく、学生からは「利用者とのコミュニケーションのハードルが高い」という意見があった。
- ⇒ボランティアの入り口として、受入施設に手軽にできる活動メニューを加えることの理解促進を行っていく。
- ・夏休みの課題で応募する学生が多いため、参加者により主体性のばらつきが見られた。
- ⇒ボランティアセンターと区内中学・高校で連携を強化し、学生にボランティアへの理解促進を行っていく。



■福祉出張講座の実施

ボランティアや NPO 等の協力で、車いすの操作方法や手話体験、ボランティア入門講座などの出張講座を区内の学校や企業で実施し、ボランティア・市民活動への理解促進を図る。



▲車いす体験講座



▲アイマスク体験講座

	令和7年度	令和6年度	令和5年度
開催数(※)	28回	15回	12回
延べ参加者数	1,830人	2,138人	2,194人
実施内容	・ボランティア入門講座(6校) ・手話体験(3校) ・車いす体験講座(4校) ・アイマスク体験(3校) ・盲導犬講座 ・切手整理ボランティア	・ボランティア入門講座(5校) ・手話体験(3校) ・車いす体験講座(5校) ・アイマスク体験(2校) ・盲導犬講座 ・切手整理ボランティア	・ボランティア入門講座(5校) ・手話体験(6校) ・車いす体験講座(4校) ・アイマスク体験 ・盲導犬講座(3校) ・切手整理ボランティア

※学校数ではなく延べ開催回数

【傾向と課題】

- ① 数十名程度で複数回実施する形式での講座申込みが多い。
- ② 学校ごとにニーズや課題が異なるため、より柔軟な内容調整や事前ヒアリングの充実が求められる。
- ③ 公立学校からの申込みは依然として限定的であり、継続的な周知・働きかけが必要である。

【4】災害に関する取組み

■災害ボランティアセンター開設・運営訓練

参加者数:社協職員 32 名／公募参加12名

「災害ボランティアセンター(以下、災害 VC)開設・運営訓練」を、地域住民や区内企業、NPO・NGO の方々など「区民参加型」訓練として実施。



▲災害 VC 開設運営訓練の様子



▲困りごととニーズのヒアリング

【成果】

- ① 区民参加型の訓練とすることで、社協職員と区民で、災害ボランティアセンターの設置・運営のイメージを共有し、平時からできることについて話し合う機会となった。
- ② 昨年度に引き続き、被災者のニーズを適切に把握する訓練を実施。被災者心情に寄り添い、ボランティア活動のコーディネートにつなげる意義を相互に学び合うことができた。

■CMN(ちよだ災害モデルネットワーク)の取組み

CMN は、災害学習会に参加したメンバーで立ち上げ、学習会の企画やネットワークづくりのための情報交換に取り組み、ネットワークの中核で顔が見える関係を築いている。また、CMN が災害時に具体的にどのような支援行動をとるか、行動指針の作成を進め、令和 8 年3月現在 35 団体がネットワークに加盟。



最新の行動指針は、こちらの QR コードを読み取ってください。

■災害学習会の企画・開催

ちよだ災害モデルネットワーク学習会
～防災まち歩き in 和泉橋～

【内容】

和泉橋地区にて、CMNでは初となるまち歩きを実施。町会の方にこれまでの地域の歩みなども解説いただきながら、地域を防災の観点から知り、参加者のつながりづくりの場とした。

15名参加

【成果】

初の試みとしてまち歩きを実施することができ、実際に災害が発生した場合の流れや意識共有などを行うことができた。

【傾向と課題】

CMN への参加者が減少傾向にあるとともに、要配慮者を抱える施設や団体の参加など多様化しているため、それぞれのニーズにあった工夫が必要。

■災害時の自助・協力の意識醸成

災害時寄り添いサポーター養成講座

【内容】

災害時の避難の際、高齢者や障がいのある方など配慮が必要な方々を支えるための基本的な知識を身につけ、普段からサポートが必要な人の気持ちに寄り添う人材の養成講座を実施。

全2回 のべ20名参加

災害ボランティアフォーラム 2026

【内容】

区内の防災・減災活動に係る課題をテーマに、ゲストとともに参加者が平時からどのような行動を取ればいいのかを考えるイベント。
『「誰でも防災」を考える』をテーマとした、要配慮者の方への支援を通じたボランティア活動をテーマに実施。

17名参加

大学生災害ボランティア養成講座

【内容】

区と災害協定を結んでいる大学の在学学生を対象に、千代田区の地域特性を踏まえた被害想定や、大学生だからこそできる支援活動を伝えた。

全7大学 のべ186名参加



◀災害時寄り添い
サポーター養成講座

防災まち歩き
in 和泉橋 ▶



【5】企業・社員のボランティア活動

■ちよだ企業ボランティア連絡会

会員企業:17社(令和8年3月時点)

ちよだボランティアセンターが事務局となり、社会貢献活動に関心を持つ区内企業との協働で事業の企画・開催、及び情報交換を実施。

▼福祉まつりブース出展

- ① 企業同士がつながり合い、どのような社会貢献活動ができるか、情報交換を行い、対面開催の協議企画を実施。
- ② 学習会を開催し、区内の福祉施設の課題に対し何ができるかを検討。



【令和7年度の活動実績】

- ① 定例会(協働企画の協議や各企業での社会貢献活動に関する情報交換など)〔年4回開催〕
- ② 一番町特別養護老人ホーム利用者との散策会〔4月〕
- ③ 児童発達支援・放課後等デイサービス「ぴかいち」との交流会(白熱! ボッチャ大会)〔8月〕
- ④ ふれあい福祉まつりでのブース出展(防災×福祉理解クイズ、福祉理解の体験)〔10月〕
- ⑤ サンタクロースボランティア〔12月〕 ⑥ 学習会「千代田区内で災害に遭った時、企業だからできることは?」〔2月〕

■ちよだボランティアクラブ

企業とその社員が、地域のボランティアグループや福祉施設等とつながりをもち、法人としての企業と個人としての社員が地域福祉の推進を図る。

企業は、任意で自社の社員が地域や施設等でボランティア活動をした時間に応じた金額を社会福祉協議会に寄付し、社会福祉協議会は、その寄付金をボランティア活動の受け入れ団体等に配分。

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和5年度
参加企業数	67 社	64 社	81社
マッチング企業※	18 社	18 社	19社
受入れ団体数	58 団体	55 団体	55 団体
総活動時間	509 時間	615 時間	929時間
寄付金額	377,000 円	480,000 円	484,000 円

※マッチング参加企業： 社員のボランティア活動を受け入れた団体に対し、社員の活動時間に応じ金額の寄付を行う企業

【傾向と課題】

- ① 小規模の地域福祉課題解決に向けた活動への関心が増えてきた一方で、大規模単発型活動へのニーズも高まってきている。
- ② 特定の日程/複数人(10数名)/単発で活動をしたいという希望が多く、活動先の創出が難しい。
- ③ コロナの緩和と共に社会貢献活動を始めようとする企業の問い合わせが増加しているが、活動内容が漠然としていて実際には活動につながりにくい印象がある。

【6】大学生のボランティア活動

■ちよだ学生ネットの取り組み支援

区内大学のボランティアサークル同士のつながりである“ちよだ大学生ボランティアサークルネットワーク”。千代田区でのボランティア活動の促進を図るとともに、学生ならではの視点の活動で、地域とのつながりを一緒に作っている。①サークル同士の交流の場、②災害にそなえた、平時からつながる場、③千代田区に貢献できる取り組みができる場、という 3 つの機能を持ち、定期的な情報交換と打合せを行い、ちよだ学生ネットとして地域とのつながりを作っている。

みんな集まれ！大学生といっしょ / 大学生と宿題を進める会

【内容】

千代田区内で、小中学生の不登校・発達特性があるなどの児童が増え、環境適応、人間関係の構築でつまずく子どもが増えているとの相談が増加。令和4年10月から約1年半、月2回「大学生と宿題を進める会」を実施。令和7年も、区内関係機関や保護者からの再開を求める声も多いことから、3つの目的を元に実施。

①子どもたちが大学生と関わる機会を作り、子どもの居場所として実施

②子どもたちが気軽に相談できる場として実施

③親と子が離れることで、親の時間を確保するために実施

長期休みの時期である8月に4日間(7コマ)、1月～2月に2日間(3コマ)、3月に3日間(4コマ)を開催し、区内の子どもの居場所確保として取り組みを行った。

【成果】

①活動終了後に毎回学生同士で成果と課題を話し合うことで、学生同士で運営する難しさとやりがい、学生が実施する意義を理解し合える環境ができた。

②「初めて夏休み期間内に宿題を終えることができた」という声もあり、参加した子どもたちの達成感を得る機会にもなった。



延べ参加者数85名／延べ参加ボランティア数182名

■子どもの居場所の立ち上げ支援

上智大に通う学生サークル、こども広場「すきかって」より、大学で子どもの貧困について学んでいる。何か自分たちから直接、社会のために貢献できるようなことをやってみたいと思い、食をツールとした方法で関わってみたいと考えている。大学生だけで運営することも食堂をやりたい」と相談を受ける。

地域に根づく子どもの居場所の立ち上げ

①千代田区における子どもの現状を学生が知る

区内開催に向け、孤食や友人関係構築の難しさなど、千代田区の子子どもたちが抱える現状を学生へ伝える。また、実際に食をツールとした子どもの居場所づくりを行っている団体へ見学を行い、開催経緯や実施目的、運営方法などを学ぶ。

②学生とともに活動の候補地を見学する

区内の高齢者施設や障がい者施設へ会場使用の相談を行い、学生とともに見学。学生自らが施設職員へ開催目的や方法を伝え、シロール麹町のきのこカフェでの開催が決定した。

③地域住民との話し合いの場をつくる

民生児童委員にも実施目的を伝えたことで、継続的な開催について話し合いが行われた。プレイベントを開催し、学生の実施に向けた思いを近隣小学校のPTAなどにも周知を行った。

【成果】

- ①学生のやりたいこと(こども食堂)と、地域ニーズにあった“孤食防止”を目的とした食をツールとした子どもの居場所と活動目的が変化していった。
- ②食を通じた居場所がなかった地区に子どもの居場所が誕生し、孤食防止や地域交流の場として、子どもたちを地域で支える体制の一助となった。

【7】ネットワークづくり

■区内大学ボランティア・社会貢献活動等担当者連絡会 ■こども食堂連絡会

ボランティアセンターとしてのネットワーク機能により、様々な地域資源のネットワークを構築・拡充を目指し、下記2つの連絡会を開催。

▼こども食堂連絡会



区内大学ボランティア・ 社会貢献活動等担当者連絡会

【内容】

区内の各大学の上記担当者が集まり、顔の見える関係づくりを行うことで、相互の情報交換や課題の共有を行うとともに、連携強化を図り、協働して大学生によるボランティア活動の推進を図るために開催

【成果】

各大学の取組みや抱える課題(例:「ボランティア団体やサークルがないため、個別コーディネートが難しい」「外部からのボランティア情報の掲載依頼が多すぎてどのように対応したらよいか」等)を共有し合うことで、相互に気づきのある場にできた。

参加大学数:計9大学(学部別)

こども食堂連絡会

【内容】

区内でこども食堂の運営や支援を行っている団体が課題の共有や連携を図り、その取組みの輪を広げるために実施。

【成果】

各子ども食堂の取組みや抱える課題を共有し合う場にすることができた。

【課題】

物価高騰が続く中、こども食堂が孤立しないような補助制度等を行政等と協議していく必要がある。

参加団体数:計11団体

■ボランティア情報誌

○通常号

ボランティア募集、イベント情報、ボランティアサークルに所属している学生による活動体験、ボランティアセンター事業の紹介などを掲載しています。
(5,000部 隔月発行)



■SNS を活用した情報発信

ボランティア・市民活動情報をすぐにお届けできるよう、Facebook、Twitter を開設しています。



Facebook



Twitter

■メールマガジン～千代田でつなメール～

Eメールを活用して、地域情報やボランティア・市民活動の情報を幅広く提供しています。
(毎週火曜日配信)



メールマガジンの配信登録は、
こちらの QR コードからできます

■各種ハンドブックの発刊

- ① 初めてボランティアをする方へ向けた「ボランティアハンドブック」
- ② 初めて災害ボランティアをする時、依頼する時のハンドブック
「知っておきたい！災害ボランティアのこと」
- ③ 福祉・医療等支援者のための、ボランティア(インフォーマル)支援を取り入れる方法



■情報ステーション

区内の商店や学校、施設等のみなさまにご協力をいただき、ボランティア情報誌をとれるステーションを設置しています。

設置数

286 箇所



社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会
ちよだボランティアセンター

〒102-0074 千代田区九段南 1-6-10 かがやきプラザ 4 階

電話 03-6265-6522 FAX 03-3265-1902

E-mail volunteer@chiyoda-cosw.jp URL <https://www.chiyoda-vc.com/>